

### 第3回酒田市総合計画審議会建設部会会議録

日 時 平成18年10月10日(火)午後1時30分~午後3時15分

会 場 酒田市役所 議会会議室

出席者

・ 部会長

小林 隆逸

・ 副部会長

青葉 礼次

・ 委員

齋藤 藤八 富樫 秀克 中瀬 義秋 高橋 敏一 齋藤 龍彌 佐藤 英治

・ 欠席委員

齋藤 成徳 佐藤 昌則

・ 事務局職員

松本 恭博 高橋 一 小林 英夫 阿部 雅治  
伊藤 一幸 高橋 義雄 原田 茂 小野 直樹 丸山 至  
後藤 修 川田 進 鈴木 良寿  
杉原 久 阿部 勉 菊池 裕基 池田 恒弥 大谷 謙治  
前田 茂男 小林 瞳

協議日程

部会長あいさつ

1. 開 会

2. 報 告

(1) 総合計画まちづくり意見交換会について

(2) 総合計画まちづくり50人会について

### 3. 協 議

(1) 酒田市の現状と課題(案)について

(2) 産業部会重点項目について

### 4. その他

### 5. 閉 会

---

## 部会長あいさつ ・ 1. 開 会

事務局(杉原 久) 本日はお忙しい中お集まりいただきまして誠にありがとうございます。それでは部会長より開会をお願いします。

会長(小林 隆逸) 第三回目となる建設部会をご案内したところ、多くの委員皆様のご出席をいただきありがとうございます。鳥海山が昨日初冠雪をしたとの報道がありました。今日もうっすらと頂上に雪をいただいております。まもなく里にも紅葉が駆け足で下りてきて、厳しい冬もやってくるという季節となりました。5月、10月と一番住みやすい季節であります。この季節に心身とも大いにリフレッシュして厳しい冬に備えてまいりたいものだと思います。既に委員各位ご承知のことではありますが、8月、9月、各総合支所では、総合計画に対する地区意見の聴取や50人会が開催されています。私たちの手元にその意見や要望書が要約されて届いているわけでありまして、3回目になるこの部会で具体的な各項目にわたっての意見、協議や要望が出てまいります。各委員の皆様から忌憚のないご意見ご要望を展開していただきますようお願い申し上げます。それでは本日の欠席の委員は、齋藤成徳委員と佐藤昌則委員です。定足数に達していますので、直ちに次第に沿って会議を進めてまいります。

---

## 2. 報 告

部会長(小林隆逸) それでは、報告の事項(1)総合計画まちづくり意見交換会及び(2)総合計画まちづくり50人会を一括して事務局より報告願います。

事務局(阿部雅治) それでは、資料に沿って報告いたします。事前に意見概要シートを送付させていただきましたが、今日お配りの資料、総合計画策定状況という資料に沿って説明

させていただきます。総合計画の各部会については8月1日から8月8日まで開催いたしました。これについては議事録等を送付しておりますので内容等は省略させていただきます。まちづくり意見交換会ですが、7月13日から9月1日まで酒田市全域に中学校単位で出かけて行って市民の方々から意見をいただきました。延べで326名が参加しております。内容を意見シートで説明しますが、まちづくり意見交換会とまちづくり50人会で若干、意見の聞き方が違うので、それについて説明させていただきます。後で集約がありますが、集約の内容も違ってきておりますので、これは意見の聞き方が違ったということで考えています。まちづくり意見交換会については、公民館などの会場に、市民の方から中学校単位で集まっていたいて意見を聞いたというものでございます。酒田市の現状と課題は事前に配ってありましたが、全部読んでいただくことは不可能でしたので、概要を説明して、後は普段自分が考えていること、感じていること、酒田市のこと、地区に関する事について規制概念に捕われないで意見を聞いたということです。内容は後ほど説明します。まちづくり50人会は一般公募、団体推薦を50人程度集めようということで行いました。全体で58人となりましたので、50人で切るということではなく、全員を参加させたということです。年齢構成については高校生から70歳以上の方々まで広範囲に入っていますし、女性や旧3町の方からも参加いただいています。開催については8月9日から8月31日まで3回にわたって行いましたが、58人ですので4グループに分かれて意見をお聞きしたということになります。これについてはメンバーが確定しておりますので、事前に現状と課題を送って、読んでいただいた上で意見をいただきました。審議会の皆さんと同じ認識の中で意見をいただいているということです。そういう形で意見をいただいたので、全体的に意見が違っているということです。次にどういう意見が出たかという類型ですが、市民の方々が必要と思っている項目、そういうものがここに出てくると思っておりましたが、先ほど申し上げましたとおり、まちづくり意見交換会とまちづくり50人会、意見の聞き方が違ったということで、ベスト10だけを見ても違いがあります。まちづくり意見交換会は普段考えていることとしましたので、こちらの方がベスト10に入るのかと思いますが、一概には言えないようです。市民の生活に関係するような身近な課題が多いと考えています。順位は目安ということで考えておりますが、例えば、両方とも観光振興、都市整備、学校教育がベスト10に入っています。そういう形で見ているが産業振興の面から見ると雇用とか林業の振興についてもかなり順位の方に入っているということになっています。意見を見ないと重要度がわからないと思いますので、意見シートをご覧いただきたいと思います。前回の部会のシートとまちづく

り意見交換会の意見概要とまちづくり50人会の意見概要と3冊ありますがよろしいでしょうか。

資料説明。 - 省略 -

部会長（小林隆逸） ありがとうございます。まちづくり意見交換会と50人会の説明がありました。50人会では60項目、まちづくり意見交換会では70項目近くに上っています。それぞれが個別のものではなく、関連するものや重複するものとなっているようです。ただいま報告、説明のあった内容について、皆様からご意見や質問をお願いします。

委員（齋藤藤八） 50人会や意見交換会でも観光についてかなり関心があったようです。合併前は、観光ルートや観光マップを作ってきましたが、これからは、新酒田市の観光ルートや観光マップを作ってはどのようにでしょうか。既に作っているのでしょうか、私は目にしたことがありません。また、鳥海高原へと続く県道升田青沢線は、観光ルートになっているにもかかわらず、観光バスが通れません。以前から問題になっていたのですが、狭いT字路があることからバスが通れず、観音寺まで30分もかけて戻ってこないと通れません。せっかく観光客が多く入ってくるのに残念です。升田観音寺線の県道も改良してもらいたいです。狭いところが一箇所あり、その時は住宅もあったので、改良が進みませんでした。現在は住宅も解体されて工事しやすくなっています。それから玉簾や升田に行く場合、観光案内が見えにくい、不足しているという要望が多くありますので、研究をして頂きたいと思います。これらについて、よいお考えがあればお話いただければと思います。

事務局（阿部雅治） まずは、観光についてお答えします。観光マップは、前回も意見がありましたので確認したところ、案内が十分なされていないところもあるようでした。マップの充実を早急に行っていきたいと思います。また、広域観光は、産業部会の中で重点的に論議することになっています。いずれにしても、やれるところから早急に取り組んでいきたいと思います。

土木課長（伊藤一幸） 升田から観音寺、玉簾から升田への路線は、いずれも県道となっています。現地を確認し、県と打ち合わせを行って進めてまいりたいと思います。

部会長（小林隆逸） 報告のあったことについては、ご意見やご質問がこれ以上ないので、次に進みたいと思います。（3）協議の事項である酒田市の現状と課題（案）について協議をいたしますが、ただ今報告のありました、まちづくり意見交換会、50人委員会を踏まえて、改めて追加や修正の事項があればご意見を頂きたいと思います。また、不足している事項などもお願いします。

委員（富樫秀克） 市道の除雪体制については、除雪エリアや面積が広がり、旧三町の除雪機械も含めるとかなりの台数で除雪を行っています。しかし、旧市内と旧三町の山間部では雪の降り方が違うわけです。昨年のような大雪ですと旧三町の除雪が大変だったようです。除雪機械の有効利用、作業時間の調整、また、オペレーターの負担軽減などを考慮しながら、このような状況に対応できるような応援体制づくり、ネットワークづくりがなされているかお伺いしたいと思います。また、除雪ボランティアは少子高齢化が進み、郡部においては過疎化が進んでいることから、やむなく高齢者自ら屋根の雪下ろしなどを行っているという実態であります。昨年は除雪作業中の死亡者が150人あったわけですが、その内3分の2が65歳以上の高齢者の事故となっています。昨年のような大雪で、シルバー人材センターや除雪ボランティアでは対応しきれないところもあり、さまざまの問題や戸惑いがあったようです。積雪の多い地域では、老人世帯を把握しながら助け合う、公民館やコミセンなどの小さな組織に負担金や補助金を出す制度が必要だと感じます。除雪ボランティアだけでは対応しきれないというのが現実ではないでしょうか。

土木課長（伊藤一幸） 除雪オペレーターネットワークについては、調整するためのネットワークはございません。なぜかと申しますと、他の地区の除雪は、基本的にできないのではないかと考えているからです。自分の地域については、電柱やマンホールの状態、排雪場所、高齢者住宅の所在などを夏のうちから勉強しています。他の地区に行って除雪を行うと、逆に怒られてしまうということもありますので、オペレーターを他の地区に配置することは、逆にマイナスというイメージを持っています。ただし、除雪機械に関しては、昨年のような大雪の時に旧三町のロータリー除雪車を市街地にお借りして有効に除雪をすることができました。機械の配置についてはネットワークを組んで対応していますが、オペレーターについてはそういったことができない状況にあります。また、除雪ボランティア、高齢者宅の除雪については、高齢福祉課もしくは福祉課に登録しますと、市が助成制度を使って除雪することになっています。また公民館地区では、地域の通学路もしくは、除雪車が入れない生活用道路などの狭い道路を除雪した場合、登録していただくと補助金制度が受けられますので、土木課に申し出ていただければと思います。

委員（齋藤藤八） 除雪の話が出ましたが、これは観光の現場についても言えることがあります。県知事との懇談でもお話をさせていただきましたが、升田から滝の小屋線に上る県道は、7月の山開き前にならないと除雪されません。ゴールデンウィーク前に除雪をしていただければ、より多くの観光客が山に入ることができると思います。4月になれば市が保有する除

雪車やロータリー車が全て空くわけですから、除雪ができるはずです。管理が管轄外ということで、手をつけずに見ているわけです。できれば、環境庁や県自然環境課と相談しながら進めていただきたいと思います。観光客に喜ばれますし、誘客という視点から相当の効果が期待できるはずです。

土木課長（伊藤一幸） ただ今の意見については、県や関係する機関と打ち合わせをしていきます。

委員（佐藤英治） 臨港線はJRの管轄となっているのか、それとも大浜地区の隆盛を極めた時代に自ら牽いたものなのか、どちらなのでしょう。

事務局（阿部雅治） JRの管轄であります。

委員（佐藤英治） 現在の問題点や課題を解決していくことも大切ですが、将来に向けた夢の部分も大切だと思っています。そのように考えますと、50人会やまちづくり意見交換会の内容から、酒田の観光面をもっともっとPRしていこうという意見が多かったように感じます。そうしたことから見ますと酒田市は、八幡・松山・平田を含めて様々な観光資源を持っています。しかし特に市内は、それらが点在するにとどまり、線で結ばれていない面があります。臨港線は遊休地化し、ペンペン草が繁茂しています。いつ列車が通っているのかわからない状況です。内陸から見たときに海や港は憧れであり、船が出入りする風景はとても印象的でもあります。これは夢であります。規制緩和がいろいろと進んでいますので、例えば酒田駅から臨港線を使って、黒部のトロッコ電車やちんちん電車のように街なかを急がずゆっくり、楽しみながら走れるものがあつたらいいと思います。それに乗って海鮮市場まで行って港の素晴らしい風景を眺め、それから歩いて市内を見てもらってはどうか。港の幹線道路ではなく、一つ折れた船着場のところを歩いて魚河岸の方に行けば、海鮮市場へ続く風景がとてもよいと思います。あのような良さをもう一度酒田の人が再認識する必要があるし、まして、内陸の人は大喜びをします。ただ、橋の下を通る際に頭を下げないと通れないところがあります。わずかな区間なので、散策道路を整備して山居倉庫まで歩いてもらうようにしたらどうでしょうか。さらに夢を語れば、最上川さくら回廊のように新井田川の両岸に桜を植えたらいいいのではないのでしょうか。これはあくまでも夢ですが、夢を見ない限りやろうとする気力が出ませんし、取組みもできません。現状の問題が多いとは思いますが、ぜひ10年後、20年後を見て計画を立ててほしいと思います。

部会長（小林隆逸） ただ今の件について、企画調整部長からコメントをお願いします。

企画調整部長（松本恭博） ただ今の臨港線の取扱いについては、50人会やまちづくり意

見交換会などでも、佐藤委員のように夢を語られる方はいらっしゃいました。例えば、トロッコ電車や臨港線を道路にする意見などでした。道路を想定した場合、JRの所管ということもあり、取り付け道路をどこにするかという問題もあります。酒田市では、市街地を観光客の皆さんが周遊するという基本立ち、その仕掛けを作っています。例えば、本町界隈に補助金を出して山居倉庫周辺の景観街なみ整備を進め、現在の山居倉庫の「点」での賑わいを本間家本邸まで繋げていこうとしております。それから、料亭文化が色濃く残る日和山界隈では、山王クラブを寄附いただいたこともあり、建物を整備しながら街中に観光客を誘導して港に繋げていこうと考えています。また、町屋が残る寺町界隈の開発をどうするか。松山地区の風情ある城下町の佇まいと各温泉施設を結び付け、自然景観を活用した広域観光ルートを開発をどうするか。この2つの考え方で商工観光部といろいろ議論を進めています。それから新井田川の特に左岸側のさくらは、大変整備がなされています。また、新井田川を整備するボランティアも育っており、これからもそういった環境整備に努めていきたいと思えます。確かに総合計画を作る際には課題解決型の手法が取られますが、将来に語れる夢もなくてはなりません。10年後20年後の荒唐無稽かもしれない夢についても議論の中で伺いながら、具体的な物事の端緒につなげていきたいと思えます。

部会長（小林隆逸） 大変前向きな方向性が示されましたので、以後、意見をいただきたいと思えます。それでは、この件についてはこれまでといたします。

---

### 3. 協 議

部会長（小林隆逸） 次に、現状と課題のとりまとめについての説明を受けたいと思えます。

事務局（阿部雅治） 現状と課題については、他の部会でも同様に行なわれています。17日の教育部会が最後となり、50人会、意見交換会で出された意見とを併せて事務局がとりまとめ、10月中に発送したいと思えます。

部会長（小林隆逸） ただ今の説明について、ご意見などありますでしょうか。

委員（全員） 異議ありません。

部会長（小林隆逸） 出席の全委員に異議ありませんので、そのように取り計らってください。それでは次に、建設部会の重点項目について説明願います。

事務局（阿部雅治） 前回の部会でも説明させていただいたとおり、皆様からの様々な意見を踏まえ、重点項目の案を絞ってみました。資料の5によって説明します。

部会長（小林隆逸） 重点項目について4点の案を出されました。このことについて、付け加えること、或いはこれでよろしいか委員のご意見を頂きたいと思います。

委員（齋藤藤八） 土地利用との関連も含め、建物利用について発言します。20年前に農林省の予算で八幡の自然公園内に農業者健康管理センターが整備されました。ある時期から社会福祉協議会が利用するようになったのですが、補助目的に合わないという理由から、市町村合併時、社会福祉協議会は隣のやまゆり荘に移転せざるを得ませんでした。せっかくある施設を使えないということは非常に残念です。それから、職員が半減したことから旧町庁舎のスペースがかなり空いている状況にあります。これは八幡だけでなく、平田も松山も同じだと思います。これを何とか有効活用することができないか考えを伺いたしたいと思います。

八幡総合支所建設課長（後藤修） 最初の件ですが、農業者健康管理センターとして補助金を頂き、昭和56年に建築されたのが「まいづる荘」です。名前のとおり農業者のための憩いの施設であります。以降、いろいろの利用がなされてきたわけですが、現在、本来の利用目的に合わない利用はできません。管理は支所の産業課でありまして、農政課の所管であります。詳しいことにつきましては把握していない状況にあります。

事務局（阿部雅治） 総合支所庁舎の空きスペースの活用については、今後の検討課題としていきたいと思います。また、重点項目については、通常の項目である交通基盤などについてはこれまでと同様に取り組むものであり、今後10年間の重点項目を議論していただくものとなります。

委員（青葉礼次） 庄内海岸のクロマツ林の件です。最近、クロ松林の景観づくりということで庄内総合支庁から熱心に持ちかけられ、浜中から西荒瀬まで学校を含めた地域での取組みを行っています。万里の松原は大変きれいに整備されましたが、西荒瀬周辺の万里の松原がほとんど手付かずの状態となっています。マツ林の北部には青サギの営巣地もあるわけですが、ほとんど手がつけられていない状況です。時々草刈をやっていただいておりますが、藪になっており見学ができず、また、一般にもあまり知られていない状況にあります。将来的に、万里の松原の整備を進めていくのか、現状のままなのかをお聞かせ願いたいと思います。

事務局（阿部雅治） 担当の所管課に確認いたしますので、しばらくお待ち願います。

部会長（小林隆逸） 部会としては今回が3回目の会議となりますが、今後、重点事項について議論を進め、来年の9月議会に上げるためには、7月中に全体のとりまとめが必要となります。当委員会の年度内のスケジュールはどのようになっていくのでしょうか。

事務局（阿部雅治） まず、本日ご提案しました重点項目を決めていただきます。今後は、

6月までに作る基本計画に合わせ、議論を進めていくこととなります。これを総合計画のどこの部分に反映できるか検討を加えていきたいと考えています。10月中まで現状と課題についてとりまとめ、施策の大綱案を10月下旬までまとめていきたいと思います。その後、事務局で基本構想案を12月下旬まで作り、基本構想や基本計画をどのように盛り込んでいけるか検討していきたいと考えています。この作業が終わりますと、来年の1月中旬から2月にかけて審議会や部会を開催し、基本構想案について論議いただきたいと思っています。同じように、50人会やまちづくり意見交換会などでも基本構想案について検討していただくこととなります。基本構想は、4月までとりまとめ順次基本計画の作業に入っていきたいと思います。全体案としては、7月中にとりまとめる予定です。

部会長（小林隆逸） 重点項目について部会で議論する機会は、後2・3回程度あると考えてよいのでしょうか。

事務局（阿部雅治） 1月の基本構想をまとめる時点、或いは、基本計画をまとめる時点など数回の部会と全体会を開催する予定となっています。

部会長（小林隆逸） 了解いたしました。それでは、万里の松原についてご回答をお願いします。

事務局（阿部雅治） 西荒瀬地区の松原には国有林が多く、その調整が必要となってきます。また、市民ボランティアなどの声があれば、行政も整備に努めていきたいと思います。

委員（青葉礼次） クロマツ林には私有地と国有地があるわけですが、総合支庁からは、クロマツ林を育てる活動についていろいろと指導していただいています。そのようなことから、国有林のクロ松林はどのようになっていくのかということを知りたかったのです。

下水道課長（小野直樹） 酒田の営林署長が秋田の森林管理局にいらっしゃった時、森林管理局が7号線から北側の松原も含めた国有林の整備を行いました。しかしながら整備に十分な手が廻らず、万里の松原は中途半端な状態になり、利用が進まなかったというのが現実だと思います。その後、万里の松原を親しむ会が立ち上がりまして、光ヶ丘公園内のマツ林の下刈りと一緒に、ボランティアで万里の松原の管理も行っているという状況です。これらの活動が西荒瀬地区まできれいに延びて行くためには、地域の皆さんと一緒に活動を進めてかなければならないと思います。

委員（青葉礼次） 学校林などの私有林と違って「万里の松原」という大きな看板があるのに、西荒瀬地区の国有林整備は、光ヶ丘地区に比べて進んでいない状況であります。そのあたりを市はどのように考えているか伺いたかったのです。私は了解しましたが、地域全体が理解

できるような機会を設けていただければ助かります。

委員（齋藤藤八） 重点項目の中に生活環境対策と災害に強いまちづくりがあることから、荒瀬川的环境も非常に重要と考えます。以前は河川内の管理が上手くいっていたのですが、近年は、柳が繁茂して川幅が狭くなり洪水の危険性が高まっているようです。災害が起こる前に対策を講じてほしいと思います。

土木課長（伊藤一幸） 庄内総合支庁の河川砂防課と打ち合わせをしていきたいと思います。

部会長（小林隆逸） その他、ご意見がなければ建設部会の重点項目について、このとおり決定してよろしいでしょうか。

委員（全員） 意義なし。

部会長（小林隆逸） ただ今決定した事項について事務局から説明をお願いします。

事務局（阿部雅治） 重要項目について庁内で議論を深め、次回までその内容を詰めていきたいと考えています。今日は、その進め方等について留意すべき事項などあればご意見をいただきたいと思います。

委員（中瀬義秋） 生活環境対策の説明で、雨水排水対策が重要であるとの説明がありました。平田地区では、排水問題で宅地開発が規制されています。これまで開発した宅地は完売している状況にあります。六ヶ村排水路が今は満水状態で受け入れができない状態ですので、何らかの手立てを講じないと新しい開発ができない状況です。この点について現在の進捗状況をお知らせ願えればと思います。

建設部技監（高橋一） 六ヶ村排水路については、一昨年の大雨で水路の掘り込み部分まで水が上がった状況でした。住宅が増えて雨水の流出量が多くなると、水位が上がるといった状況です。これについては、今年度直営で、雨量と水位の関係を調査しています。来年度は現地の測量を行い、詳細設計と事業費について検討していく予定となっています。浸水対策については前向きに検討していきたいと考えています。

委員（中瀬義秋） 地域振興という点から考えますと、地区に住宅を増やしていくことが重要となりますので、是非解決に向けて進めていただきたいと思います。

委員（佐藤英治） 交通基盤の整備という視点から、先ほどの臨港線の活用についてもっと現実的なものを考えました。酒田中央高校や酒田新高校ができることを考えると、生徒数が千数百名と膨大となり、朝夕の交通量が大幅に増加します。これは、生徒の安全確保ということからすると非常に大変な問題です。その際に臨港線を活用できないでしょうか。また、新高校開校に合わせた道路の整備は、どのようになっていくのでしょうか。

土木課長（伊藤一幸） 中央高校の前道路は、県道となっています。新高校の建設計画が持ち上がったことから、現在、打ち合わせを始めております。また、都市計画道路になっており、計画幅員18mとなっています。この決定がかなり以前であったことからこれを広げるかどうかは今後の課題です。また、中学校の統合計画を睨みながら、来年度から通学路のあり方についても一中、中央高校、五中周辺、地区別では、西荒瀬地区、光ヶ丘地区、北新町地区、駅から新高校までのルートを含めて総体的に検討していきたいと考えています。

---

#### 4. その他

部会長（小林隆逸） 重点項目について皆様のご承認をいただきました。確認いたしますと、土地利用のあり方、美しい酒田の景観づくり、生活環境対策、災害に強いまちづくり、極めて行政的に取り組むべき普遍的で最も大切な項目だと思います。今後当部会において、2回ないし3回の議論を積み重ねて行きたいと思います。協議といたしましては以上であります。その他よろしく申し上げます。

事務局（阿部雅治） 今後のスケジュールにつきましては、先ほどの説明のとおりです。これから事務局で施策の大綱、基本構想案の作成に入ります。12月から1月の上旬に完成しますので、1月の末から2月の上旬にかけて審議会で議論していただくこととなります。日程が決まりましたらご案内いたしますので、よろしく申し上げます。

部会長（小林隆逸） 皆様からその他の項目についてご意見等ないようでしたら、これで第3回建設部会を終了いたします。お忙しいところありがとうございました。

閉会 午後 3時20分